

突風等に伴う農林業用施設及び農作物等の管理対策

平成29年4月28日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が4月28日10時44分に発表した「雷と突風に関する新潟県気象情報第1号」によると、29日は日本海を気圧の谷が通過し、大気の状態が非常に不安定となる見込みであることから、29日昼前から夕方にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、ひょうのおそれがあります。

今後の気象情報に注意し、これらに対する事前・事後対策を徹底してください。

なお、暴風時は、屋内に待機し人身事故防止に十分ご留意ください。

1 水稲

○ 強風・ひょう対策共通

【事前対策】

- (1) 強風に備えて、育苗ハウスの防風網やマイカー線の点検・補強を行う。
- (2) 既に田植えが済んでいるほ場では、深水にして植え痛み等の被害軽減に努める。
- (3) 強風時は原則としてハウスを閉め切るが、高温になる場合は風下側を開けて換気する。

【事後対策】

- (1) 強風によって破損した育苗ハウスのビニールシートは早急に補修してかけ直す。
- (2) 播種直後でビニールシートが損傷した場合は、応急措置としてトンネルがけを行う等保温に努める。なお、トンネルがけの場合は、パイプハウスより日中温度が上がりやすく床土が乾燥しやすいので、温度や水の管理に注意する。

2 園芸全般（野菜・果樹・花き共通）

(1) 強風対策

【事前対策】

- ア 防風網の破損部分やたるみを直し、金具や支線の腐食箇所などを事前に点検補強する。
- イ ハウスやトンネルはマイカー線やくいなどのあおり止めを点検補強するとともに、周辺で風に飛ばされる恐れのあるものは片づける。
- ウ 強風時は原則としてハウスを閉め切るが、高温になる場合は風下側を開けて換気する。
- エ 砂丘地で飛砂の恐れがある場合は、スプリンクラーによるかん水を行う。

【事後対策】

- ア ハウスビニール等が破損した場合は、速やかに補修する。
- イ 強風で茎葉が損傷した場合は、速やかに殺菌剤散布を行い、病原菌の感染を予防する。

(2) ひょう対策

【事後対策】

茎葉が損傷した場合は、速やかに殺菌剤散布を行い、病原菌の感染を予防する。

3 野菜

(1) 強風対策

【事前対策】

ア そらまめは、倒伏防止の支柱を立てる。

イ ベたがけ資材の抑えを補強する。

【事後対策】

ア 株が倒伏した場合は、速やかに立て直す。

イ ベたがけ資材が破損した場合は、かけ直す。

(2) ひょう対策

【事後対策】

ア 葉折れや茎葉の損傷が見られる場合は、草勢の回復を図るため、速効性肥料の追肥や液肥の葉面散布等を行い、草勢の低下が大きい場合は、被害を受けた2～3日後、草勢回復の徴候が見られた時期に実施する。

イ 二次的被害として、損傷を受けた傷口から侵入、発病する病害を防止するため、茎葉等に傷や損傷のある場合は、薬剤防除を行う。

ウ 薬剤防除は、使用基準を厳守し、使用濃度表示に幅がある場合は、高倍率（低濃度）で散布する。

4 果樹

(1) 強風対策

【事後対策】

ア 倒伏した場合は樹体を引き起こして支柱で固定する。また、主枝・亜主枝の裂壊や損傷が発生した場合は、損傷箇所を切り直して保護剤を塗布する。

イ 防風施設を点検整備し、樹園地内の保温のため破損した箇所は早急に補修する。

ウ 開花期に被害を受けた場合は、結実確保対策を徹底する。

エ 新梢等の欠損が見られる場合はていねいに剪除し、癒合剤を塗布する。

(2) ひょう対策

【事後対策】

ア 開花期に被害を受けた場合は、結実確保対策を徹底する。

イ 新梢、展開葉の損傷を確認した場合は、病害の進展が懸念されるので、速やかに追加防除を実施する。

5 花き

(1) 強風対策

【事後対策】

チューリップなど開花期の球根類で強風により花卉が飛散した場合は、放置せずに褐色斑点病の蔓延防止のため、速やかに散った花卉を回収する。

(2) ひょう対策

【事後対策】

チューリップ、ユリ、ボタン、ヒマワリ等で茎葉に損傷を受けた場合は、速やかに殺菌剤散布を行い、病原菌の感染を予防する。

6 畜産

【事前対策】

- (1) あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却、ウインドレス畜舎の換気等について、早急に対応できるよう準備、点検を行う。
- (2) 畜舎の破損を防ぐため窓や扉等は確実に閉じるとともに、必要に応じて補強する。特にハウス畜舎等簡易な施設は、風の被害を受けやすいため、補強を確実に行う。
- (3) 畜舎への雨水の浸水を防ぐとともに、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。

【事後対策】

- (1) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作動点検を行う。
- (2) 施設等の破損があった場合は、必要に応じて家畜を安全な場所に移動させる。また、速やかに修繕をし、家畜の安全な飼養環境を確保する。
- (3) 畜舎の破損により雨水等の浸水があった場合は、速やかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を行う。特に、搾乳機器は十分な点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

7 きのこと

【事前対策】

- (1) 施設の点検を十分に行い、損壊、倒壊等が生じないよう保護・補修に努める。
- (2) 屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆などの適切な管理を行う。移動が可能な場合は屋内に移動させる。

【事後対策】

- (1) 突風が収まったら速やかに、被害状況の把握に努める。
- (2) 被害状況に応じた適切な修繕を行い、施設等の速やかな復旧に努める。
- (3) 修繕は十分な安全を確保してから実施する。

8 漁業全般

【事前対策】

- (1) 出港前に確実に気象情報・雷注意報を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心がけ、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲に近づかないようにして、早めの帰港を心がける。

【事後対策】

係留している漁船や漁具を確認する際は、十分な安全を確保してから実施する。